

飯綱町立

三水小学校

明日へ

令和2年 3月16日

学校だより第17号

文責：山田

ご卒業おめでとうございます

<責任感と自信>

3学期は短いのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止策として臨時休業となったことから、一段と短くなってしまい、いよいよ明日は卒業の日となりました。本来ならば、たくさんのご来賓の方々をお招きし、1年生から5年生まで全員で6年生の卒業をお祝いしたかったのですが、諸般の事情により参加者を制限せざるを得なくなりました。誠に申し訳ありません。

今年の6年生はとにかく一人一人が忙しかったです。その理由は例外なく一人一人が何かしらの役割を担当し、活動していたからです。通常は、児童会の役員（正副会長や書記、各委員会の正副委員長）になった一部の児童が忙しく、他の児童は自分のことを優先しているという学校が多いです。本校では今年度、縦割り活動を本格的に導入し、5月から毎日の清掃をすべて縦割り班で行うようにしました。また集会で交流をしたり、全校体育を縦割り班で行ったりしました。6年生が他の児童をリードしてくれたおかげで、日々の清掃がどんどん向上していきました。私語が聞こえることはほとんどなくなり、清掃中は校内が静まりかえっています。また学年を越えた交流が進み、信頼関係が広がってきました。6年生のリードの仕方は様々です。一つ一つ丁寧に言葉やしぐさで教える場合や、自分の行動で示し、他の学年の友だちはその様子を見て覚えていく場合など、いろいろでした。特に清掃は毎日の活動なので、班のみんながしっかりやっているかどうかを見たり、終了後の反省会を進めたり、やることがたくさんあります。忙しくなってくると当然時間が足りなくなります。授業の時間を使うことはできませんから、休み時間や給食後の時間を融通して準備にあてるようになります。しかし、6年生は何とかやり繰りしてしまうのですね。そこには、「6年生として全校を引っ張っていかなくては」という気持ち、「三水小学校を素晴らしい学校にしよう」という気持ちがあり、学校全体のことを優先して考えようとする責任感、使命感があったことと思います。一人一人が担当した役割を、それぞれの児童が責任もってやり遂げる経験をしてきたことにより、責任感や自信が育ってきたのですね。6年の担任の先生からは、「今ほどの子にお願いしても前に出て進行役をやってくれます」との報告があり、ここまで成長したんだと驚くと同時に、とても嬉しく、そして頼もしく思いました。6年生は清掃だけでなく、これまでに挨拶、歌声、笑顔など、たくさんの伝統を築いてくれました。今後は5年生から1年生が立派に引き継いでくれることでしょう。



<リーダーとして>

今年の児童会のスローガンは「笑顔いっぱい～みんなであるこう～」でした。「あるこう」の「あ」は「あいさつをしよう」、「る」は「ルールを守ろう」、「こう」は「交流をしよう」を表しています。その中の「あいさつ」ですが、代表委員会の児童が毎朝交代で昇降口前に立ち、登校してくるすべての児童に「おはようございます」と挨拶をしてくれていまし



た。挨拶運動はずっと前から続けてきていることですが、今年は特に力を入れていました。挨拶がすばらしかった児童は、給食終了後の連絡の時間に取り上げられ、「あいさつ名人」として全校に紹介されます。「今日のあいさつ名人は〇年△組の◇◇◇◇さんです。顔を見て笑顔で元気な声であいさつができていました」と紹介され、全校の友だちから拍手をもらえるのです。次第に、「明日はあいさつ名人になるぞ」「まだ一回も名人になってない。頑張ろう」といった気持ちが育ってきたのです。

こうして全校を動かし、挨拶が浸透する学校にしてくれたのは、紛れもなく6年生を中心とした児童の皆さんでした。そのことに確信がもてたのは2月20日に行われた児童総会でした。準備をきちんとし、てきぱきと進める6年生だけでなく、各委員会に質問や意見、感想を寄せている3・4・5年生。「来年もぜひ続けてほしいと思います」「〇〇をやらなかったのはどうしてですか」といった疑問や意見をたくさんの児童が寄せてくれるのを見て、一部の熱心な児童だけで考えているのではなく、全校の子どもたちが自分のこととして児童会や学校のことを考えてくれるようになってきたんだということが分かりました。

立派な6年生が卒業する頃になると、毎年「今の6年生を越える子どもたちは出てこないのでは」という気持ちがよぎるのですが、翌年は見事に立派に成長し、学校全体をリードしていく子どもたちが育っています。これは6年生が意欲的に活動している様子が、5年生から1年生までの子どもたちにとって憧れの姿になっているからでしょう。「私なら〇〇なことをやってみたいな」「◇◇の活動を取り入れてみたい」のように、今後を見通しながら気持ちを高めている子どもたちが出てきているということです。現在の5年生は、既に2学期後半から来年度のことを視野に入れて行動してきています。児童会の正副会長や正副委員長も決まりました。4月からの三水小学校が楽しみになってきましたね。



<最後に>

6年生の子どもたちが生まれた平成19（2007）年は、新潟県中越沖地震がありました。また3才の春の東日本大震災、長野県北部地震。1年生の秋の御岳山の噴火、長野県北部地震。3年生の春の熊本地震。そして6年生の秋の台風19号による災害。まさに、日本の復興と共に歩んだ12年間でした。わずか12年間の人生の中で、時代の節目とも言える出来事に立ち会い、目に見えるもの、形あるものはかなさを知り、人間の力の弱さ、また、かけがえのない命の尊さを感じながら成長してきたように思います。様々な経験を経て身につけた考え、行動力を、この先もどんどん発揮して行ってほしいと願っています。

長い間一緒に生活をし、数々の思い出を残してきた36名の6年生の皆さん。4月からの中学生としての生活がより一層充実したものになることを期待しています。今まで、本当にありがとうございました。ご卒業、おめでとうございます。

